



キャッシュレス時報

CASHLESS JIHO

長内 智

(株)大和総研
金融調査部
主任研究員

第4回 キャッシュレス決済手段の種類と特徴

現実の決済手段の全体像

●3つの主要なキャッシュレス決済手段

前回まで、世の中の関心も高い政府のキャッシュレス推進策を中心に、日本のキャッシュレス決済の現状を取り上げてきました。

ただ、一言で「キャッシュレス決済」といっても現実にはさまざまな種類が存在し、それらをしっかり把握しておくことも重要になります。なぜなら、実際に「どの決済手段を利用すべきか」という判断に困る可能性があるほか、政府目標値の範囲や日本のキャッシュレス化の全体像を見誤るおそれがあるためです。

そこで、決済手段の一覧を現金とキャッシュレスの2つに大きく分けて整理したのが下記の図表です。一般には、図表の項目のうち、①クレジットカード、②デビットカード、③電子マネーの3つが主要なキャッシュレス決済手段とされています。

【図表】 決済手段の一覧

現金	キャッシュレス（現金以外）	
紙幣	クレジットカード	商品券
	デビットカード	口座振替
硬貨	電子マネー	口座振込
	プリペイドカード	その他

(注1) 網掛けの箇所が政府目標値の対象範囲。

(注2) QRコード決済は電子マネーに含む。

(出所) 大和総研作成

現在、政府は、日本のキャッシュレス決済比率を2025年までに40%（2018年は24%程度）へ高めるといふ政策目標を掲げています。この比率を計算する際に用いられるキャッシュレス決済額は、3つの主要な決済手段の金額のみを合計したものであり、その他の決済手段が含まれていない点に留意が必要です。

●銀行口座経由を含めると50%超

実際に消費者が利用している他のキャッシュレス決済手段としては、口座振替や口座振込が非常に重要です。具体的には、電気代やガス代、水道料金、保険料、家賃、授業料などの支払において利用されています。

前述のとおり、これらは政府目標値の対象範囲外ですが、現金以外のキャッシュレス決済全体という観点では、その金額も含めて考えたほうが実態により近くなると思います。

それでは、3つの主要な決済手段以外にも含めると、キャッシュレス決済はどの程度利用されているのでしょうか。

この点については、都市銀行やゆうちょ銀行に開設された個人の給与受取口座の出金情報から、おおまかな傾向を読み取ることができます（全国銀行協会調べ）。2019年のデータによると、キャッシュレス決済により個人口座から払い出された金額は全体の約51%であり、銀行のATMや窓口で引き出された現金（約49%）をわずかに上回っています。

このように日本のキャッシュレス決済比率は、



銀行口座経由も含めると極端には低くないといえるでしょう。

実は、日本の課題というのは、店舗での支払で現金の利用がかなり多いことであり、それを捉える上で銀行口座経由を除いた政府の目標値が重要な指標になるのです。

店舗での支払方法と最近の注目点

●支払時の「操作」による分類

キャッシュレス決済の分野では、店舗で支払う際の各種決済手段を、支払時の「操作」に着目し、以下の3つに分類することができます。

- ① カードを専用読み取り機に挿す「接触型」
- ② カードやスマートフォンを専用機器にかざす「非接触型（コンタクトレス）」
- ③ スマートフォンで読み取る、又は表示する「コード型（QRコード、バーコード）」

なお、クレジットカードに関しては、①接触型のカードが圧倒的に多いですが、近年、②非接触型に対応したカードが着実に増えていることが注目されます。

実際の支払にかかる時間は、②非接触型、③のバーコードが短い傾向にあります。他方、③のQRコードは、現金で支払うよりも手間と時間がかかることが多いです。

●新型コロナ禍で話題の「現金非接触」

最近、店舗でのキャッシュレス決済は、新型コロナ禍の衛生面で静かに注目されています。例えば、現金がウイルスの感染経路の1つになりうることから、店舗での支払の際、現金との接触を避けるためにキャッシュレス決済を利用するというケースが挙げられます。

現金の衛生管理に関しては、中国の民間銀行や中央銀行が新型コロナの感染予防のために現金を大量に消毒したという話が有名です。

こうした新型コロナ禍に伴う現金非接触という「新しい生活様式」が、キャッシュレス決済の追い風になっており、その動向については今後も注目したいポイントです。

乱立するキャッシュレス決済手段

●レジ付近に並ぶ多数の決済手段

日本では、キャッシュレス化の進展に伴い、店舗のレジ付近に決済手段がいくつも提示されているケースが増えてきたように思います。その際に少し気になるのが、結局どの方法がお得なのかという点でしょう。

実は、キャッシュレス決済を利用するにあたって、これは非常に悩ましい問題です。なぜなら、各社が独自のキャンペーンを実施しているため、お得な支払方法が時期や店舗によって異なるからです。各種キャンペーンを逐次比較しつつ、多数の決済手段を使い分けて、よりお得に買い物することは可能ですが、それを実践している人は少ないと思います。

こうした中、現実的な選択として「所有するクレジットカード・プラスワン」が1つのアプローチになると筆者は考えます。

プラスワンとして、支払スピードや操作性を重視する人は、②非接触型が向いており、そのうち最も利用する交通機関や小売店系の電子マネーが1つの選択肢になるでしょう。お得さという点では、これまでキャンペーンが多く実施されてきた③のQRコードを選び、まずは業界大手のサービスを検討するのがより安心だと思えます。

●フィンランド人もびっくり

日本のキャッシュレス決済手段は非常に多く、諸外国からみてもかなり異様な状況です。

個人的な話として、2019年に北欧諸国を視察した際、面談先のフィンランド人から、「日本では、なぜキャッシュレス決済手段が多いのか？」と驚かれたことが強く印象に残っています。

キャッシュレス化が進んでいる北欧諸国では、デビットカードの利用が支配的であり、1枚のカードで便利なキャッシュレス決済というのが普段の日常なのです。そうした国からすると、日本の乱立状況は想像しにくいでしょう。